

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	26	春野	高等学校	課程	全
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する。  農業分野を基盤とする体験的な活動を通して、個性や能力の伸長を図り、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○主体的に学び、自己の将来は自分で決定し、その実現のために努力する生徒を募集します。 ○時を守り、場を淨め、礼を正すことができる生徒を求めています。  【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○確かな学力と主体的に学ぶ力を育てます。 ○学習の基礎となる言語能力や情報活用能力を育成します。 ○「自立」と「自律」の心を持ち、高い志を持って将来を切り拓いていく力を育成します。 ○総合学科の特性を活かした実践的な学習を通して、生徒一人ひとりの個性と能力の伸長を図り、地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○1年生での学校設定科目「グリーンカルチャー」で、環境や生命・食料についての体験・探究的学習を行います。 ○「産業社会と人間」で、進路探究や地域探究に取り組みます。 ○勤労観や職業観の育成を図る「インターンシップ」を実施します。 ○「総合的な探究の時間(なすプロジェクト)」で系列での学びや進路、SDGsと結びついたテーマに関する探究活動に取り組みます。 ○土佐文旦・アジサイなど、高知県ゆかりの作物を生産し、高品質なものづくりに取り組みます。(園芸系列) ○育てた野菜や果樹を瓶詰や漬物に加工し、地域への販売実習等を行います。(食農系列) ○衣食住、保育や福祉等、実践的な活動を行います。(生活クリエイティブ系列) ○英語・数学・国語をはじめとする5教科を中心に学習を深め、進学を見据えた教育活動に取り組みます。(人文系列)

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】 生徒が目標をもって学びに向き合おうとしている様子が伝わってくる。PDCAによりよく取り組みができています。学力に関するアンケート項目は、肯定的評価も高く満足感がうかがえる。将来どの分野に進むにしても、学力向上は自己実現に向け重要なことだと思われる。毎年尽力され、国公立大への進学が増加したことは大きな成果ではないか。基礎学力の向上を学校だけで上げることは難しいかと思うが、10分間の読書等の小さな学習ステップの取り組みが生徒にとって取り組みやすい内容かと思われる。
【社会性の育成】	評価 【 A 】 生徒の主体性を育てる取組を継続して取り組み、生徒も成果が発揮できている。いろいろな生徒がいる中でよく取り組みができています。地域との連携も充実しており、生徒のチャレンジをしっかりと支えています。学びもその後につないでいるように思われる。様々なタイプの生徒・保護者がいる中で指導は大変ご苦労されていることと思う。インターンシップやインタビューシップ等、「実際の働く」を通して自分の将来のことを考えること、こうなりたい大人に出会えることが大切であり素晴らしい取り組みである。インターンシップを全員に実施される取り組みは非常に良いと思う。
【チーム学校】	評価 【 B 】 学校の振興では、何より卒業生の進路の結果が評価できる。国公立の合格数の増加をはじめ、希望の進路先への針路を定め、生徒の学力をしっかりと身に付ける取組を真摯に取り組まれている様子がよく分かる。学力の向上及び社会性の育成の取り組み結果だと思ふ。不祥事防止では、学校でベクトルを合わせながら取り組まれている。職員のメンタルヘルス及び面接等が実施されており開かれた学校のイメージがついた。働き方改革では、様々な取組をされ努力されていることがうかがえる。先生方も働き方改革を意識し実感を持たれている。この実感が大切だと思われるので積み重ねていきたい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ・1年:(25.0%)→(28.7%)【4ポイント増加】 ・2年:(42.4%)→(50%)【8ポイント増加】 ○授業外学習時間の増加(60分以上) ・各学年10人以上増加させる。 ・1年(49人)→(70人)・2年(39人)→(60人) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・高校3年で将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている生徒の割合:83.1%⇒85%以上	・放課後の補修補習、小テスト等の実施 ・進路学習室の活用(始業前、放課後) ・補習の充実(進学、就職対策) ・AI教材「すらら」の活用(個別最適学習) ・漢字検定、英語検定、ワープロ・情報処理検定や各系列別検定受験の推進、補習の実施	B ○C層以上の生徒の増加(第1回) ・1年:(25.0%)・D3層:50名(37.9%) ・2年:(30.6%)・D3層:41名(30.6%) ○授業外学習時間の増加(60分以上) ・1年(63人)・2年(31人) ○将来のための勉強をしている生徒 ・高校3年で将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている生徒の割合:82.5% ○資格取得数…延べ78名 ○キャリアノートの活用…放課SHで2分間実施	・引き続き基礎学力の定着・向上 ・全学年で補習や個別指導を実施 ・AI教材「すらら」の活用 ・自学ノート等の活用と添削・回答方法の周知 ・資格取得指導を継続的に実施 ・キャリアノートの継続的な活用	B ○C層以上の生徒の増加(第2回) ・1年:41名(33.6%)【8.6ポイント増加】 D3層:50名⇒39名(32.0%) ・2年:47名(34.8%)【7.6ポイント減少】 D3層:41名⇒44名(32.6%) ○授業外学習時間:60分以上(平均) ・1年:25名(25分)・2年:33名(25分) ○将来のための勉強をしている生徒 ・高校3年で将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている生徒の割合:(80.8%) 【2.3%減少】 2年生の基礎力診断テスト結果では目標を達成することはできなかったが、3年生の国立受験者及び合格者数が過去最高人数(8名)となったことは大きな成果である。	・引き続き基礎学力の定着・向上に取り組む ・AI教材「すらら」を活用して個別学習に取り組む ・引き続き朝読・新聞学習の実施 ・資格取得への取り組みを継続実施 ・引き続きキャリアノートを活用し、自学ノートなど授業外時間の学習時間を把握する。
社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○校外活動への積極的な参加 ・1人1回以上参加(400回)  ○キャリアパスポートの作成 ・各学期記入⇒継続 ・キャリアノートの活用	・インターンシップの実施 ・ものづくり総合技術展への参加 ・ボランティア活動への参加 ・外部招聘事業の活用 ・規範意識の醸成 ・礼儀・態度の育成 ・キャリアノートの日々の点検	B ○校外活動への積極的な参加 ・各種ボランティア、校外活動(ナツボラ等)延べ94名参加 ・インターンシップ…120名 ・インタビューシップ…20名 ○キャリアパスポートの作成…1学期末に実施 ○新しい学校のリーダー研修への参加(2名)	・引き続き、校外活動への積極的な参加(ボランティア等)を促す。 ・ものづくり総合技術展への参加 ・生活改善週間など学校全体で指導を充実 ・生徒情報等の共有、声掛け等による未熟な指導	B ○校外活動への積極的な参加 ・校外活動等…196名 ・インターンシップ…120名 ・インタビューシップ…20名 延べ人数:336名 インターンシップとインタビューシップのいづれかに2年生全員が参加することができ概ね目標を達成することができた。 ○キャリアパスポートの振り返りを実施	・校外活動へ積極的に取り組む ・引き続きキャリアノートを活用し、キャリアパスポートの作成を実施 ・規律ある生活習慣の確立に取り組む ・規範意識や他者を思いやる態度や礼儀の育成を継続して実施
地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(65%以上) ○地域、関係機関との連携回数:5回以上 ○資格取得率の向上 ○農場等における植物の観察や実験・実習の実施 ○教員の専門力向上をはかる研修会等への参加	・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の充実 ・インターンシップ、インタビューシップの充実 ・あじさいまつりや地域の各種イベントへの参加 ・ボランティア活動への参加 ・検定・資格取得に向けた補習の実施 ・実験・実習等の観察記録ノートの点検 ・各種専門部会、研修会等への参加	B ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答 全学年(56.0%) ○地域、関係機関との連携、ボランティア活動、各種イベントへ積極的に参加 ・女子高校生の企業訪問への参加 ○教科及び系列独自の資格取得率の向上に努めている。	・教員のICTを活用した授業及び授業デザインを取り入れた授業の実践・校内研修の実施 ・資格取得率の向上 ・高知大学地域協働学部との連携、調査の企画	B ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(55.6%) 1年(52.4%)、2年(61.5%)、3年(52.2%) ・校外活動への積極的な参加 ・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の研究報告会の実施 ・各種ボランティア活動への参加 ・資格取得数(1月)…延べ276名	・各系列の特色を活かした高大連携強化を考慮しながらの肯定的回答(55.6%) ○「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の充実 ・地域、関係機関との連携、ボランティア活動への積極的な参加及び声掛け ・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の研究報告会の実施 ・検定・資格取得に向けた補習の実施 ・教員の専門力向上を図る研修会等への参加 ・実験・実習等の観察記録ノートの点検
教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基礎となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面で意識的に設定した回数:各教科学期に1回以上 ○「総合的な探究の時間」の成果物のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結びつけている成果物の割合:75%以上	・各教科、各系列の特色を活かした連携強化 ・公開授業週間の実施(年2回以上) ・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)のテーマ設定、活動内容等の充実	B ○公開授業週間の実施(5月～6月) ○「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の充実 ・自然や地域資源に係る調査をはじめ、地元の歴史や文化を探究する活動を実施	・公開授業週間の実施(10月～11月) ・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)のまとめ、校内発表に向けた指導を充実させる。 ・教科「情報Ⅱ」の教科横断的授業の実践	B ○公開授業週間の実施(5月～6月、10月～11月) ○高知若草特別支援学校との連携(防災学習) ○「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の充実 ・自然や地域資源に係る調査をはじめ、地元の歴史や文化を探究する活動を実施 ・課題発見や解決に結びつけている成果物の割合(100%)	・公開授業週間の実施(年2回以上) ・各教科、各系列の特色を活かした連携強化 ・特別支援学校との連携 ・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)のテーマ設定、活動内容等の充実

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ○地域・大学等の連携 ○進路保障	○魅力化・特色化の具体的な目標(指標) ○学校運営協議会等の実施回数 ・年間2回実施(6月、2月) ○地域との連携・協働 ○専門学校や各種学校との連携(年間5回以上) ○進路実現に向けた系統的な進路指導の実施	・学校運営協議会の開催 ・各系列の特色を活かした連携強化 ・「産業社会と人間」なすプロ(総合的な探究の時間)の充実 ・インターンシップの継続実施 ・就職アドバイザーの活用	A ○産業教育PRイベントへの参加 ○地域人材、中小企業同友会等との連携(生活クリエイティブ系列、なすプロ) ○学校運営協議会の実施(6月) ○インターンシップ:120名参加(7月～8月に2年生全員が参加) ○インタビューシップ:20名参加	・継続して地域人材との連携を図る。 ・高知大学地域協働学部との連携、調査の企画 ・インターンシップ、インタビューシップの充実 ・進路指導の充実を継続 ・就職アドバイザーの効果的な活用	A ○地域人材との連携(各系列、なすプロ等) ○インターンシップ、インタビューシップの実施 ○学校運営協議会の実施(6月、2月) ○3年生進路状況(95.0%) ・四年制大学:21名(内8名:国公立大) ・短期大学:7名 ・専修各種:49名 ・就職:37名(内6名公務員) ・未定・その他:6名	・地域との連携・協働を継続実施 ・学校運営協議会の委員選出 ・大学、専門学校と連携した取り組みを継続実施 ・インターンシップ、インタビューシップを継続実施 ・進路実現に向け、系統的な進路指導を継続実施
不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ・他人事として捉えない意識改革 ・法令順守の意識(100%) ○校内研修の実施回数(3回以上) ○不祥事防止委員会の実施回数(12回)	・校内研修の実施(不祥事防止対策研修等) ・不祥事防止対策アンケートの実施 ・風通しの良い職場環境づくりの徹底 ・相談窓口の周知徹底	B ○不祥事防止対策に係る委員会及び校内研修等の実施(各月の運営委員会) ○不祥事防止に係るチェックリストの実施 ○教職員の当初面談による聞き取りや個別面談によるメンタルヘルスの状況確認を実施している。	・定期的に不祥事防止対策に係る校内研修やアンケート等を実施する ・風通しの良い職場環境づくりの徹底 ・相談窓口の周知徹底	B ○不祥事防止対策に係る校内研修及びアンケート等の実施(4月～2月)計33回 12月⇒学校評価・部活動アンケートの実施 ○教職員の最終面談による聞き取りや個別面談によるメンタルヘルスの状況確認を実施 ○風通しの良い職場環境づくりの徹底 ○相談窓口の周知徹底	・定期的不祥事防止対策に係る校内研修やアンケート等の実施 ・風通しの良い職場環境づくりの徹底 ・相談窓口の周知徹底 ・スクールカウンセラーとの連携
働き方改革	★長時間勤務の解消 ○各種休暇等の取得奨励 ○分掌等役割の平準化	○年休、夏期休等の休暇取得推奨 ○部活動の休養日の遵守 ○会議の精選(PCの活用)	・部活動の計画的な実施(随時) ・会議資料の事前確認(PCの活用) ・ペーパーレス化の推奨 ・教員業務支援員の活用	A ○夏期休暇取得率(83.8%) ○分掌等役割の平準化は組織職員会で確認して運営にあっている。 ○部活動の休養日の遵守(達成) ○会議の精選(PC活用によるペーパーレス化100%実施) ○学校閉庁日の設定(8月)	・分掌業務の平準化に向け、業務・組織の見直しを検討 ・部活動の計画的な実施を継続 ・会議資料のデーター化を継続 ・休憩室の活用促進 ・教員業務支援員を活用し教員の業務負担を軽減させる	A ・分掌、学年、教科会の定期開催により、情報共有と業務の見直しを図った ・部活動は月ごとに計画を立て、休養日の遵守は概ね達成した ・職員会議はPC活用によりペーパーレス化を実施 ・年休取得状況:平均11日間取得(1/26現在)	・H担任の負担軽減や分掌業務の内容など見直しをさらに進める ・規律ある部活動を継続する ・各種会議の事前資料確認や協議事項の精選(ワークライフバランス) ・タブレットの有効活用 ・教員業務支援員の継続配置